

波紋

2018年2月
No. 392号

第25回元気の出る信念会



1月9日ヒルトン名古屋にて信念会を行いました！今年は過去最大の90人越えて開かれ甲冑を着たりじゃんけん大会等で大盛り上がり！皆さん楽しんでいただけたでしょうか？本年も元気な森松でいきたいと思いますので宜しくお願い致します！！

加藤

『企業に求められること』

森 直樹（代表取締役社長）



今から25年前、公務員が完全週休2日制となりました。

学校も、私が小学生のとき（36年前）は土曜日は半日だったのが、いつの間にか土曜も休みになりました。時代の移り変わりと共に、会社へ求めるものというのは変化します。30年前のバブル景気やさらにその前の高度成長期は、仕事が山のようにあり、やればやっただけの報酬を得ることができた時代であった、というのが私の印象です。たくさん稼いで車を買ひ、結婚し家庭を持ち、家を買ひ、子供を育てる。そんな風景を皆が共通の目標としてそれに向かって邁進していたのが当時だったのではないのでしょうか。

今や、そのような共通の目標であった車、家庭、家、といったことが、ある人には変わらず目標となりつつも、それよりもさらに別の選択を取る方もあるのではないのでしょうか。車を持つこと、結婚すること、家を買うこと、それらが必ずしも共通の目標では無くなり、個人個人の生き方、求めることが多様化している時代です。そのような現代において、企業に求められることは安定して給料がもらえる事、また企業自体が安定して存続する事、そして自己実現のための時間が持てる働き方が出来る、ということです。無駄な仕事をせず、必要な仕事に集中する事で時間を有効的に使える。もちろん、実際には仕事がそこまでスマートに済むことではないですが、今求められていることを端的に言うところのようなものだと感じています。

そして、企業とそこで働く従業員さんとの繋がりも変化していくことは避けられないですが、企業全体で1つのチームとしていい仕事をする、という森松であり続けるために必要な事は何か、を日々考えて行動していきます。

「母親の長寿祝い」を考える

伊東 郁二（特販部）



2月1日で数え年88歳の米寿を迎える母親。還暦祝いに始まり、古希祝い・喜寿祝い・傘寿祝いを経験させてもらった。最近の「認知症」の状態は、薬で進行は少し止まっているものの、家を空けがちな私でも気付いき、驚きを間近で感じている。1人で歩け、花を生け、裁縫やミシンも普通にやっている姿を見ると、ギャップに驚く。家族の情報では、昨年の4月に行った家族旅行が楽しかったようで、また行きたいそうだ。「米寿の祝い」は近々、前回と一緒に10人で旅行へ行くことを検討することにした。「米寿の祝い」を調べるにあたり、長寿祝いを調べてみた。1番目の長寿祝いが数え年61歳の「還暦（かんれき）」、赤色で祝うのは有名。暦が一周して「赤ちゃん」に還ること、「第2の人生の門出」という意味でお祝をする。2番目の長寿祝いが数え年70歳の「古希（こき）」、紫色で祝う。由来は中国の詩人杜甫の詩「人生七十古来稀なり」からとられているようだ。紫が昔から特別な色として崇められ、位が高い人しか身に付けるのを許されなかったため、長寿への敬意の現れとして「紫色」の物を贈ってお祝いするそうだ。3番目の長寿祝いが数え年77歳の「喜寿（きじゅ）」、紫色で祝う。「喜の字の祝い」「喜の字の齡（よわい）」とも言い、「喜」の字を草書体で「毚」と書く。「十七」の上に「七」が付いたような文字で「七十七」に見えることから、「喜寿」と呼ぶ。4番目の長寿祝いが数え年80歳の「傘寿（さんじゅ）」、紫色で祝う。傘寿の「傘」の略字が、「八」と「十」という文字に見えることや、「八」が末広がりであると考えられている。5番目の長寿祝いが数え年88歳の「米寿（べいじゅ）」、黄色・金色で祝う。「米」は、「八」と「十」と「八」に読めること、末広がりの「八」などからとてもおめでたく考えられ、数ある長寿の中でも、米寿祝いが一層盛大に催される傾向にあるそうだ。その後は、数え年90歳の「卒寿（そつじゅ）」、99歳の「白寿（はくじゅ）」、100歳の「百寿（ひゃくじゅ）」と続く。冷静に考えると、孫・ひ孫と一緒に暮らし、目の中に入れても痛くない可愛い息子もいる。少々出来の悪い息子ではあるが、「幸せな婆さん」なんだろうなあ……？

神在月

村田 恒夫（経理部）



キング・オブ・縁結びと言えは島根県の出雲大社。昨年、絶対には有り得ないと思っていた長男（三十三歳）が結婚した為、お礼参りをしなければとの思いがあり、昨年の十二月三日、妻と二回目の出雲大社に行ってきました。この時期を選んで、出雲大社に行ったのは、出雲大社の神在月（かみありづき）の間で、この時期だけ日本全国の八百万の神様が出雲に集まるという伝説があるからです。神在月は旧暦の十月で行われるので毎年異なるのですが、二〇一七年は十一月二十七日から二十四日までとなります。神在月とは、現在では十月を「神無月（かんなづき）」といいます。出雲では旧暦の十月を「神在月」といいます。それは、出雲大社の大国主大神（おおくにぬし）のおおかみ（の）元に全国から神々が集まるとされているからです。全国の他の地域には神様が不在になるため「神無月」といいますが、出雲には神々が集まるので「神が在る月」で「神在月」といいます。唯一、伊勢神宮の内宮の神さま「天照大御神（あまてらすおおみかみ）」だけは、神在月の期間中も神宮におられます。神在月では、出雲大社に集まった神様が「神議（かむばかり）」という会議をします。出雲大社の大国主大神は広く縁結びの神様として知られており、「すべてのものの縁を結びつける」といった会議がされます。そこで集まった神様が男女の縁や人の縁、仕事の縁、お金との縁などをどのように結びつけるかについて決定します。ご縁といえは、三年前に出雲大社に行った時に見た、「ご縁の国しまね」のポスターの言葉「運は一瞬、縁は一生」が印象に残っています。人生の中でつむぐ、つなげるものが「縁」。その一瞬を切り取った瞬間が「運」というコンセプトのもとで、「しまね」は「縁」を大切にしたいというメッセージがポスターに込められています。素晴らしい縁を結びつけてくれた出雲大社に感謝……！

還暦

大橋 康成（配送部）



6月で60歳還暦です。子供の頃は、60歳の人を見て随分おじいちゃんだと思いました。自分がこの年になり時代なのか、今の時代の若いと思う。

厄年なんて迷信と言ってしまえばそれまでかもしれませんが、それぞれの年齢の頃に社会的に変化があったり、体調が変わってくる年でもあるので、色々なことが起こりやすいため、きつと昔の人たちの経験で、今年は注意しなさいよって年齢が厄年になったんでしよう。

まだ若いつもりでも物忘れが酷くなったり、走ろうとすると足が上手くついてこず身体だけ前のめりになったり、朝は5時にはパツチリ目が覚める。今は、6時半には会社に行き会社の周囲を健康のため掃除をします。

まだ還暦ではないですが、人生80年これからが一番楽しい時ではないでしょうか。還暦といっても人生50年の昔とは違い大病でもない限りは結構人生長いものです。先のことをよくよするより今をしつかり生きることですね。

残された人生どう生きるかを考えることは確かに大事なことです。もっと大事なことはいかに健康に生きるかではないかと考えています。糖尿病で合併症の症状は出てませんが、現状維持でやっていくしかありません。還暦記念として親友とハワイ旅行を計画しています。

餅つき

伊東 義弥（特販部）



皆様、あけましておめでとうございます。

正月休みも終わり、ようやく休みボケもなくなってきました。

さて、いつも正月というとおせち料理を食べるのですが、今年はお餅もたくさん食べました。なぜお餅かというと、去年の年末に餅つきをしたからです。新しく特販部に入社した新人の則武恵秀さんの家で毎年年末に餅つきをやっているとのことで、去年私の家族4人で参加させていただきました。餅つきなんて保育園の時以来でしたが、則武さんは、毎年やっているようでかなり様になっていました。

杵と臼でもち米をこねながら突いていくのですが、力だけではなかなかうまくできません。何事も一朝一夕ではできないものだなと実感しました。子供用の杵も用意されており、息子も娘も餅つきを体験させていただきました。そのあとは、つきたてのお餅をきなこや焼き醤油、あんこ、ネギ味噌など、さまざまな調味料をつけて食べましたが、つき立て旨い！！！！！！つい食べ過ぎでしまいました。最後についたお餅をもらったのですが、一度冷凍しても市販のものとは比べ物にならないもちもち感で、何とも言えないおいしさでした。

いままで正月ではお酒を飲むので、餅はたべなかったのですが、今年はこのお餅のせいで3キロほど太ってしまいました。。。（笑）今から春にかけて何とか体重を元に戻そうと思います。2018年も元気に頑張ります。本年も宜しくお願い致します！！

改善委員

要工場プレス2Fの床は、波状の鉄板が剥き出しで、台車は移動できない、人も歩きにくい状態でした。現在の床の上に合板（コンパネ）を貼り付け、フラットの状態にした事によりダンボールの出し入れや在庫の出し入れが容易にできるようになりました。

提案者 橋野、山口 和也



改善総評

床がフラットになったことにより台車が使用でき、入出庫の効率が大変よくなったと思います。

また、中央にあった棚を両側へ移動したことにより写真のように

在庫スペースも大変広くなりました。改善前を知っている方はびっくりするほど

綺麗に広くなりました。ぜひ一度見に行ってみてください。

作業に携わった皆さんお疲れ様でした。ありがとうございました。

森松株式会社のオリジナルキャラクター
守り隊の『マモーリン』誕生しました！



このたびLINEスタンプデビュー☆
全40種類100円で販売しています！
いますぐクリックしてね！

森松株式会社 社内報

No: 392 平成30年 1月 25日

編集者

大石耕平 小坂美香 間部将大

伊藤ゆかり 近藤結礼

加藤俊輔 則武恵秀

縁切り神社

阿部 かおる（特販部）



京都の安井金比羅宮に行ってきました。ご存知の方も多いと思いますが、ここは縁切りで有名な女性に人気の神社です。パワースポットでもあるので、たくさんの方であふれていました。多くの人の目的でもある縁切りの巨石の碑。人がやっと通れるくらいの穴があいていて、そこをくぐるとご利益があると言われています。巨石の碑には参拝者の恐ろしい祈願（怨念？）がびっしりと貼られています。一見ひきまします。私が行った日は秋でもかなり暑い日でしたが、たくさんの方から皆さんおばさんまでがその執念にご利益を授かろうと長蛇の列をつくっていました。今回私は軽い気持ちで行ったので、巨石をくぐることもなく、怨念を貼ることもなくご本殿の参拝だけすませました。

ちなみにこの神社は、縁結びの神様もいます。何も思わず1ヶ月後。思いもよらないところ（人）と縁を切る出来事がありました。ご利益？かなりきくようです（怖）人との縁だけではなく、病气、酒やたばこ、賭け事など悪運を払ってくれるそうなので、興味がある方は一度行ってみてはいかがでしょう。でもその後、恐ろしいご利益があるかもしれません。

